

# 会長挨拶

全日本中学校長会会長 平井邦明



第七四回全日本中学校長会総会の開催にあたり、文部科学大臣代理・文部科学省大臣官房審議官安彦広斉様、全国都道府県教育委員会連合会会長代理・連合会事務局長飯島昌夫様、日本PTA全国協議会会長代理・常務理事佐藤博之様をはじめ、全日本中学校長会歴代会長及び理事の皆様、関係機関の皆様など、多くの皆様の御臨席を賜りましたことに心から厚く御礼申し上げます。

全日本中学校長会の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実に四年ぶりの「参集形式」となります。この間、各学校におきましても、「全国一斉臨時休業」「緊急事態宣言の発令」などにより、これまで当たり前であった教育活動に様々な制限がかかるとともに、感染の拡大・縮小の繰り返しに伴う対応の変更など、苦労の連続であったことと思います。長きにわたって悩まされ続けてきた新型コロナウイルス感染症は「5類」へと移行され、ようやく本来の教育活動に傾注できるようになり、「安心」というところではないでしょうか。全国の各学校では、学行事をはじめとして工夫ある取組がなされるなど、コロナ禍での試行錯誤から得られたことも多くあったと思います。全てをリセットするのではなく、コロナ禍で得られたことを、どのように生かしていくかという視点も大切にしたいものです。

さて、令和五年度における全日本中学校長会の様々な活動は、本日の総会をもって実質的にスタートとなります。今年度から新たに会員になられた皆様も含め、ぜひ全国の中学校教育の充実・発展に向けて、お力添えをよろしくお願いたします。

昨年、会長に就任した際、「全日本中学校長会として取り組む内容」について、三点挙げさせていただきました。

第一の「持続的かつ効果的な学びの保障」については、「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、一人一台端末などのICTを活用するなど、各学校のたゆまぬ努力により、生徒の学びを保障することができたと思っております。また、二月に開催された「自民党学校DX推進PT」のヒアリングでは、毎年、全国の調査研究協力校の御協力により作成している「調査研究報告書」のデータ、「理事会」の情報交換の際に各分科会で報告された全国の状況、これらを基に、「現在の学校におけるICTの現状と課題」を、直接、国会議員の皆様と理解していただくこともできました。

第二の「学び続ける教員の実現と教職の魅力の向上」については、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において、教育研究部の調査結果を基に「学習指導要領の実施状況」を報告させていただきました。また、「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」の中間まとめ（案）に対するヒアリングの際は、副会長の皆様などからいただいた意見をまとめ、全日本中学校長会として意見表明も行いました。特に、教師が本来の教育活動や研修に専念できる環境の構築には「学校における働き方改革」の推進が不可欠などの点について、意見を反映させることができたと考えています。

第三の「全日中新教育ビジョンの更なる周知と推進」については、北海道（札幌）大会における全日中提案、新春座談会でのテーマ設定など、折に触れて取り上げてまいりました。また、各地区の研究大会等においても、新教育ビジョンに基づいたテーマを設定していただくなどの状況もありました。今後も、学校経営の根幹として常に意識していただけるよう、引き続き周知と推進に努めてまいります。

令和四年度は、「教員勤務実態調査」の実施、「生徒指導提要」の改定、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」の策定、「次期教育振興基本計画」の策定など、今後につながる大きな動きのあった一年でした。また、三月には第二期の中央教育審議会が組織され、初等中等教育分科会においては、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に向けた学校教育やそのための環境整備の在り方」「教師の養成・採用・研修の一体的改革に向けた取組」を審議事項として検討が開始されました。全日本中学校長会としまして、こうした国の方向性等を踏まえつつ、引き続き全国の会員の皆様と共に、「実践もあり理論もある有言実行の教育の実践的専門家集団」としての役割を果たしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

結びに、これまでの全日本中学校長会の活動に御理解・御協力をいただきました役員の皆様をはじめ全国の会員の皆様、御支援をいただいております文部科学省、各都道府県教育委員会、関係団体の皆様、そして全日中OBの皆様にあらためて感謝を申し上げますとともに、全国の会員の皆様の更なる御活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。